

地ひびき



ブーン・ヒル から マチャブチャレ (6,993m)

319号

「無言館」への坂道

丸岡 稔

暮れに、絵の仲間を誘って上田市にある「無言館」を訪ねました。

「無言館」については、何年か前の地ひびきに三代さんが書いておられますが、戦没画学生の遺作を展示した美術館です。美しいものを求める、ひたすらな気持ち伝わってきて、胸が痛くなりました。あの理不尽な戦争が、無残にもこの人達のかけがえのない青春を奪ったのです。訪れる度に、この人達に思いっきり描かせてやりたかったと思います。戦争は、常にこうして若者の未来への夢と、限らない可能性を奪い去ってしまうのです。

会場の一角に、館主の窪島誠一郎氏の詩が掛けられていました。

あなたを知らない

遠い見知らぬ異国で死んだ 画学生よ

私はあなたを知らない

知っているのは あなたが遺したたった一枚の絵だ

あなたの絵は 朱い血の色にそまっているが

それは人の身体を流れる血ではなく

あなたが別れた祖国の あのふるさとの夕灼けの色

あなたの胸をそめている父や母の愛の色だ

どうか恨まないでほしい

どうか咽かないでほしい

愚かな私たちが あなたがあれほど私たちに告げたかった言葉に
今ようやく 五十年も経ってたどりついたことを

どうか許してほしい

五十年を生きた私たちのだれもが

これまで一度として

あなたの絵のせつない叫びに耳を傾けなかったことを

遠い見知らぬ異国で死んだ 画学生よ

私はあなたを知らない

知っているのは あなたが遺したたった一枚の絵だ

その絵に刻まれた かけがえのないあなたの生命の時間だけだ

読み終えて、しばらくはそこを動けないでいました。この詩は、

平成9年に開館された時のもので、それからもう20年も経っているのに、この間どれだけの人が、この人たちの叫びに耳を傾けただろうかと思っただけです。

私の住んでいる長岡市に、「九条を守る長岡の会」があります。

日本国憲法 第九条 「日本国民は、正義と秩序を基調とする国

際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」正に世界に誇るべきこの平和憲法を守ろうという人の集まりで、年齢は勿論、仕事も生き方もいろいろですが、共通しているのは人間の暖かみを感じられることです。私のような、祝日には日の丸の旗を掲げ、天皇を尊敬する人間がこの会の代表世話人を委されているのです。

戦後の日本の平和は、戦争を実際に体験した人たちによってつくられたと言って良いと思いますし、日本の憲法は、戦争の悲惨さを知っている人たちがつくったものです。

日本の若者を何としてでもあの「無言館」の画学生のような目に遭わせてはならない。私たち「九条を守る長岡の会」の活動は、こうした希いと、戦争の事実を今の若い人に知ってもらいたいと祈りながらやっているのですが、なかなか伝わらないのが悲しいです。

私のように、実際に戦争を体験した者は、どんどん少なくなっ行ってきます。生きていても発言する力を無くしています。しかし、若者が、「無言館」を訪ねたとしたら、きっと、私たちが希っているものを感じとるに違いないと思います。

若者が、自分の問題だと気がついた時、それは大きな、大きな力となり、国を変えて行くに違いないのですが。

どうしたら若者を「無言館」への坂道に誘うことが出来るでしょうか。